

# 千葉県言語聴覚士会ニュース

NO. 37 2011年12月18日

## 目 次

秋季都道府県士会協議会報告	1	匠の技	9
一般社団法人化について	2	ひとくちコラム	11
学術局から	4	各委員会・作業部会から	12
施設紹介	7	事務局から	16
臨床こぼれ話	8	理事会等報告	18

## ■□■平成23年度秋季都道府県士会協議会

が開催される■□■

副会長 相楽 涼子

平成23年11月5日、平成23年度日本言語聴覚士協会 秋期都道府県士会協議会が東京都内にある、朝日生命大手町ビル・大手町サンスカイルームで開催されましたので、その概要を報告します。

### 1. 平成24年度 医療保険及び介護保険における診療報酬の同時改訂について

現在、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会及び、日本言語聴覚士協会の3協会が連携し、診療報酬の同時改訂に向けた「要望書」を厚生労働省の担当課に提出していることが報告されました。今回は、3協会から「訪問リハビリテーションの設置」についての要望を提出しているようですが、平成24年度の同時改訂は、医療・介護とも非常に厳しいものになることが予想されており、いずれも今後の動向が注目されています。

### 2. 東日本大震災関連および認定言語聴覚士について

1) 東日本大震災に際しては、リハビリテーションに関連する10団体が活動したことが報告されました。主に宮城県からの要請が多く、医師、看護師、理学療法士・作業療法士（廃用予防）、ソーシャルワーカーが中心に派遣されたようです。しかし言語聴覚士への要請はなかったとのことでした。

2) JDD（日本発達障害ネットワーク）から支援の要請があったことが報告されました。要請に向けて、10月～3月に各分野1名ずつ専門家を派遣していく予定とのことでした。

3) リハビリテーションに関連する10団体から『災害対策マニュアル』（医歯薬出版）が来年度に出版される予定であることが報告されました。

4) 災害医療研修コースが開催され、加盟団体からは6名が推薦され参加する予定であることが報告されました。

5) 平成24年度の認定言語聴覚士講習会は、「摂食嚥下領域」に加え「言語発達領域」が新設されることが報告されました。また、平成25年度は「失語・高次脳機能障害領域」と「言語発達領域」が実施予定であることが報告されました。尚、来年度新設される「言語発達領域」においては、「摂食嚥下領域」「失語・高次脳機能領域」同様、開設から3年間は連続で行い、その後は参加者の動向をみながら開催時期を検討していく方針が報告されました。

### 3.『言語聴覚の日』について

日本言語聴覚士協会が推奨する、平成23年度の『言語聴覚士の日』の行事は、9月19日に、福井県の福井県民ホールにて開催されたことが報告されました。当日は150名の参加者が県内から集まり、大盛況とのことでした。

### 4. その他

1) 神奈川県では、来年度の神奈川県言語聴覚士会設立に向け準備が進められているようです。今回の都道府県士会協議会においては、3名の準備委員がオブザーバーとして参加しておりました。

2) 鳥取県言語聴覚士会と島根県言語聴覚士会は2県が合併することで一般社団法人を取得したことが報告されました。また沖縄県言語聴覚士会も今年の7月に一般社団法人を取得したことが報告されました。一般社団法人の取得においては、今回の協議会においてもいくつかの県士会が検討していることが報告されました。その中で、会員に法人化の理解が得られないという県も1つありました。

## **重 要** 一般社団法人に対する理解を深めるために

組織検討委員会 平山 淳一、大内 明日可、番 洋子、松井 美智子

千葉県言語聴覚士会（以下、県士会）では、来春に「一般社団法人 千葉県言語聴覚士会」にするための準備をすすめております。その準備の一環として、県士会のHPに、一般社団法人化に向けての疑問、質問を受けるコーナーを設けましたが、残念ながら質問等はありませんでした。

そこで今回、想定問答を掲載し、みなさまの「一般社団法人」についての理解にお役立ていただければと思います。

### Q1 一般社団法人とはどういうもの？

A 2名以上の方が、営利（お金稼ぎ）を目的としない非営利活動を行う集まりに対して、法律によって人としての権利能力（法人格）を与えることで、団体としての活動をしやすくするものです。

**Q2 何故、法人にならないといけないの？**

A 現在、千葉県の理学療法士会や作業療法士会等ではすでに一般社団法人を取得し、活動を行っています。一般社団法人を取得しているか否かで、社会的信用にも差が生じ、行政への発言力や信頼度といった点にも影響が生じる恐れがあります。私たちの活動が今後千葉県にとって、より有益なものとするためにも、一般社団法人を取得し理学療法士会や作業療法士会と足並みをそろえて活動していくことが必要になっていくであろうと考えています。尚、他県の都道府県士会も一般社団法人への移行を始めており、島根県と鳥取県は共同して一般社団法人山陰言語聴覚士会を作り、大分県、沖縄県が一般社団法人となりました。熊本県、大阪府は当会と同じく、法人取得に向けて準備をすすめています。

**Q3 メリット・デメリットは？**

A Q2にも述べましたが、団体としての信頼度がアップすることが最大のメリットになります。またそれ以外の細かな点では、法人格を取得すると、法人名義で銀行の口座を設けることができるようになります。それによって、今まで代表者の個人名義でしか出来なかった行政的な処理が、法人名で行えるようになります、さまざまな契約も法人名で通用できるようになります（権利能力の取得）。また、基本的に非営利活動であれば税金面でも課税されないか、均等割り額だけの最低限の課税になります。特に大きなデメリットはありませんが、法人を取得する際に、登録料や印鑑代として12万円ほどの費用がかかります。

**Q4 会費は上がるのか？**

A 現在、3500円の年会費ですが、法人化によって会費を上げることはありません。法人化への手続き費用に関しましても、以前より法人化へ向けた諸経費として積み立をしてありますので心配はありません。

**Q5 税金はどうなるの？**

A Q3で述べましたように、非営利活動の一般社団法人では収益事業（たとえば、勉強会を開催してその参加費から利益を得るなど）が課税の対象となります。しかしその他に関しては県士会の帳簿を提出し、「非営利団体」であることを税務署が確認できれば非課税の対象となります。

**Q6 法人化をするにあたって、私たち会員に何か変わる事はあるの？**

A 現在、皆さんは県士会の「会員」という名称になっていますが、法人化をする際には、法律上の用語として、「社員」という名称へ変更されます。また、「会則」という用語も「定款」という用語に変更されます。しかしそれ以外に大きく変わることはありません。

**Q7 入会や退会の手続きは変わるの？**

A 私たちは現在「会則」に基づいてさまざまな活動を行っています。そしてその「会則」は、一般社団法人化後もそのまま適応されていきますので、入会や退会、その他の手続きにおいても変更はありません。

## ◇ 学術局から ◇

学術局 木下 亜紀、木村 知希

### 1. 平成23年度第3回研修会のお知らせ

「失語症」をテーマに症例検討会を開催します。講師に前会長の宇野園子先生をお招きし、症例へのご助言と臨床上のポイントや失語症者を支える社会的な活動についてご講演いただきます。症例検討会後には、皆様の臨床上の疑問点などを相談し合い、よりよい方法を模索するための情報交換会を行います。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘い合わせの上、ご参加ください。

\*日時：平成24年1月15日（日） 13時00分～16時30分

\*会場：千葉大学医学部附属病院3階 第1・3講堂

\*内容

#### I. 症例検討会 [13:00～15:40]

① 「左被殻出血により皮質下性失語を呈した一例」

発表者：千葉・柏リハビリテーション病院 言語聴覚士 高橋 勇人 先生

② 「重度失語症者に対する回復期リハビリテーションでの臨床」

発表者：新八千代病院 言語聴覚士 荒木 淳子 先生

「失語症者を支えるということ—訓練室の先に思いをはせて—」

助言・講演：流山中央病院 言語聴覚士 宇野 園子 先生

#### II. 情報交換会 [15:50～16:30]

\* 申込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

### 2. 第2回研修会報告

平成23年9月11日（日）に東京女子医大八千代医療センターで第2回研修会を開催しました。当会聴覚障害委員会が「聴覚障害～補聴器編～」と題して、今年で3度目の講演を行いました。その後、長澤泰子先生に吃音についてご講演いただきました。参加者は57名（会員：47名、会員外：10名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

演題名：「聴覚障害を知る 補聴器編」

～機種と機能、装用指導、そして最近の補聴器事情について～

講師：当会聴覚障害委員会

今回の研修会では「補聴器の適応と装用指導」、「補聴器の選定・調整・機能、外部機器、活用にあたり自立支援法について」を中心にご講演いただきました。

まず、「補聴器の適応」では、①伝音性難聴と感音性難聴、②語音明瞭度、③聴力の程度といった3つのポイントに着目する事、また「装用指導」では、小児の場合は両耳装用が原則であり、成人では両耳

装用が理想であるが、経済面・手指の操作性より片耳装用もあり得るとのご説明がありました。

次に、「補聴器の選定」では、価格・出力・機能・形式・ご本人様が扱えるかどうかを検討すること、「補聴器の調整方法」はトリマー法（調整専用のドライバー）と専用調整ソフトがあり、昨今は後者が用いられていること、「補聴器の機能」は状況に応じて様々であるが、騒音抑制や指向性マイクは周囲の環境によってプログラム可能であり、その環境を補聴器自体が判断し、自動切り替えもできるように、また周波数圧縮により今まで聴くことができなかった音の聴取が可能な補聴器も出始めてきているとありました。機能の中には、ご本人様の聴く環境状態を補聴器がデータとして保存できるようになってきているようです。

質疑応答では、①就学年齢での中等度～高度難聴児における補聴器の装用効果について、②成人の場合、補聴器適正の最終判断には補聴器適合検査の実施が重要であること、③補聴器のデジタル化は不快な音圧の除去が最大の利点であること、等が意見交換されました。

演題名：「吃音セラピーの現状と課題」

講師：NPO法人 こどもの発達療育研究所 顧問 長澤 泰子 先生

「研究及び臨床の返還」、「原因追及の研究とセラピーへの影響」、「吃音のセラピーにおける吃音緩和法と流暢性形成法の対立」、「最近の研究報告」、「吃音の一般的な基礎知識」、「現在の吃音臨床」についてご講演いただきました。吃音の歴史的観点から始まり、アイオワ式心理療法では流暢に吃る；stutter fluentlyを目指す「吃音緩和法」があり、行動療法では流暢に話す；speak fluentlyを目指す「流暢性形成法」があるなど、その臨床の立場からセラピーの方法があるということをお話くださいました。また吃音の原因としてOrton-Travisによる大脳半球優位説とJohnsonの診断原因論があり、これらは否定されているものの、吃音セラピーに対する影響は過大であることもわかりました。

ご講演の最後に我が国の吃音臨床の現状として先進国であるアメリカと比較すると社会の認識度、専門家の養成において遅れをとっている現状との事でした。

質疑応答では、①日本語と英語圏において訓練に大きな相違点はないこと、②行動療法の1つであるリッカムプログラムは今後の検討課題であること、③幼少時から吃音と対峙する姿勢が重要であること、④吃音の障害区分について意見交換がなされました。

いずれの講演におきましてもフロアとのやりとりで予定の時間を超過するほどの大変な熱気に包まれ、実りある研修会で幕を閉じました。

## アンケート結果

①研修会に参加して（回収：34名）

「聴覚障害を知る 補聴器編」

～機種と機能、装用指導、そして最近の補聴器事情について～

とても良かった 16名、普通 11名、期待していた内容と異なった 1名

具体的に：

- ・とても短い時間の中でわかりやすく説明してもらえてよかった。デジタル補聴器の機能について細かく知ることができてよかった。
- ・補聴器の適応から選択までを価格なども含めて具体的に紹介していただいたことで、一連の流れを再確認することができました。

「吃音セラピーの現状と課題」

とても良かった 25名、普通 4名、期待していた内容と異なった 0名

具体的に：

- ・シリーズで受講したいと思いました。金額は今回以上にさらにかかっても構いません。後半、先生がマイクも使わず、話してくださっていたことに感動しました。
- ・後半の指導をメインに聞けたら、もっとよかったです。

②今後の研修会や当会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

- ・補聴器装用訓練や難聴児への療育に関するケース発表を聞きたいです。聴覚障害に関する相談会を実施してもらいたい。
- ・嚥下障害、失語症について研修会をしてもらいたい。

#### **学術局より**＜研修会を終えて＞

吃音セラピーの歴史に触れながら、長澤泰子先生にご講演いただきました。長澤先生の熱意のこもったご講義に多くの参加者は感銘を受けたようです。また、県内で開催されている吃音の勉強会に先生をお招きする契機となったようで、当研修会が会員の皆様にご活用いただいたことを嬉しく思います。

[研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。当会ホームページにお問い合わせください。

### **3. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？**

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。



## 施設紹介

**なのはなメイト君津**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ S T 上野 沙織

当施設は、木更津を中心に君津・袖ケ浦にある通所介護施設です。当施設は利用者様にあった身体機能の維持及び改善と、実用的な生活動作能力を発揮していただくことを目的に開設されました。施設内には、運動機能室の他、ドリンクバーやカラオケルームなどが設置されたり、利用者様が移動や日常動作を多く行わなくてはならないような工夫もなされています。また、習字・ハーモニカ・手芸・調理・カラオケなどのクラブ活動があり、利用者様を主体とした活動を行っております。

S Tは、君津の施設を中心に3施設を巡回しております。依頼は、ケアマネージャーをはじめ、ご本人やご家族からいただき、評価・訓練及び相談を行っております。さらに、施設内でスタッフや他の利用者とのコミュニケーションが円滑に行われるよう、スタッフへの対応・コミュニケーション手段の提案、ご家族やケアマネージャーへのサポートも行っております。

3施設を巡回しているため、サポートが不十分な点もありますが、施設スタッフや地域の方々と連携し、利用者様のコミュニケーションが円滑に図れるよう、また、より良い訓練やサポートが提供できるよう今後も努力していきたいと思っております。

---

**流山市幼児ことばの相談室**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ S T 越名 康子

流山市幼児ことばの相談室は、昭和59年9月に駒木台福祉会館の一室に指導員1名で開室し、平成8年10月からは指導室2室と待合室のある現在の流山市ケアセンターの4階に移りました。現在、非常勤のみですが、4名のS Tが就学前のお子さん46名を担当し、指導しています。

流山市はつばさ学園療育相談室が本相談室の窓口となっており、インテークや検査、医師の診察の後に療育支援会議にて支援方針が決定されます。本相談室は支援方針決定後の指導業務を行っています。

近年は指導児が増加しており、本相談室も今年度は10月で待機児が出ています。

このような本相談室の最大の特徴は、開室当時から対象児童に対して週1回の指導を保障してきたことです。近年の要指導児数の増加にあっても、週1回の指導を守ってこられたのは、市内の関係機関の協力と理解があったからだと思っています。

今後も関係機関の期待に応えるべく、もちろん利用者である親子のよき伴走者としての指導を最優先に行ってゆきたいと思っています。

## 臨床こぼれ話

### † † † 失語症者の自殺企図について † † †

市川高次脳機能障害相談室

小嶋 知幸

4月にST生活をスタートなさった新人の皆さんも、半年以上が経過し、改めて言語聴覚士の仕事の難しさや奥深さを感じていらっしゃる頃ではないでしょうか。

皆さんは、日々の臨床を通じて、ご自分の業務が患者さんの命に関わる仕事だと痛感する場面はありますか？「ある」とお答えになる方も多いことかと思いますが、恐らくそれは摂食・嚥下領域でのことではないでしょうか。

あるST養成校の先生から、「私は、摂食・嚥下障害の講義の初日には開口一番、『摂食嚥下障害の臨床は、まかり間違うと人の命に関わるのだから心して臨むように』と、引き締めるようにしている」ということを伺ったことが、私は忘れられません。この先生のご発言は正しいことは正しいのですが、実は、不十分と言わざるをえないのです。

今からもう十数年前のことですが、病院に勤務していた時、一人のウェルニッケ失語の患者さんを担当しました。その方は、私のそれまでの臨床経験の中で出会ったこともないほど重度の方で、どのような方法を用いても、まったく意思の疎通を図ることができませんでした。後方病巣でしたので、身体的には何ら後遺症はありませんでした。その時私は臨床実習生を引き受けており、学生さんといっしょにその患者さんに関わっていました。

ある週末、その患者さんは外泊をすることになったのですが、私はとても良いことだと思い、学生さんにも「このような重度のウェルニッケ失語の方の場合、孤立感から自殺に至る危険性を常に念頭に入れて関わらなくてはダメなんだよ。でも、外泊中は一安心」などと、話しておりました。

そうしたら、何とその方は、その外泊中に飛び降り自殺をしてしまったのです。ご自宅から歩いて数分の、とある団地の屋上に、靴が揃えて脱いであったそうです。

私は、失語症臨床家としての無知と、学生さんに対して見当違いのことを偉そうに語ってしまったことへの自己嫌悪で、これ以上STを続けていくことができないという気持ちになりました。

それから数週間は呆然と立ち尽くしていたように思いますが、よく覚えておりません。何度もSTを辞めようと思ったことだけは覚えております。それでも結果としてSTを辞めなかった理由(わけ)は、時間が経過するうち「自分が辞めれば患者さん方が救われるのだろうか。自分のこの気持ちは単なる逃げではないだろうか。それよりもこの十字架を一生背負い続け、二度とこのようなことが起きないように努力することの方が、価値があるのではないだろうか」と思うに至ったからです。

この私のエピソードは極端なケースかもしれませんが、すべての失語症の方は、発病後最低一度は「死ぬ」ことを考え、そして多くの方は、発病から何年経っても「死」を考えることから逃れられないで生きていらっしゃると思います。若いSTの皆さんへ。STの力量不足が失語症の患者さんを死に至らしめることもあるのだということを心の片隅に置いて、どうか私のような経験をなさらないで下さいね。





前回よりスタートをして好評を頂いている、「知っておきたい緊急時対応」3回シリーズの第2回目です。今回も、君津中央病院 救急・集中治療科 部長の北村伸哉先生が、より実践的な「蘇生のCAB」を、わかりやすく、親しみやすくまとめてくださいました。一人の医療・療育・介護の従事者である前に、人として何ができるのか？みんなで勉強致しましょう。

## ●○● 続 蘇生のCABを知っていますか？ ●○●

### 1. 続いて、G2010, 成人へのCPR

さて、今回は 1. 周囲の安全を確認する 2. 近寄り、意識を確認する 3. 応援を呼ぶ。自動除細動器 (AED) をとりに行ってもらう 4. 呼吸の確認 5. 胸骨圧迫 6. 気道確保 7. 人工呼吸 8. AED が到着次第、その指示通り (AED から流れる音声に従い) に除細動を行うという一次救命処置 (basic life support: BLS) の手順を述べ、最初の項目の周囲の安全確認についてお話ししました。今回はこの続きで、具体的な心肺蘇生法について進めていきたいと思います。ご紹介するのは心停止の原因で最も多い心原性心停止 (心停止の原因が心臓にある場合) に対する蘇生法です。

### 2. 近寄り、意識を確認する

目の前で人が倒れたり、倒れているのを見つけた場合にまず、何をすべきでしょうか？ スルーする？ 逃亡する？ 何をしても訴えられる可能性のある現代。一生懸命やっても非難され、傷ついてしまう危険性。実際、誰にも協力してもらえず、トラウマになってしまった方の報道もありました。うーん……。でも、医療従事者である前に、人として勇気を出して近寄り、両肩を軽くたたいて大声で呼びかけましょう。“大丈夫ですか？”と。これに対して何らかの応答やいやがる仕草等が認められなかったなら、これは“反応なし”です。さあ大変。逃亡すれば良かったと思わずに次のステップにすすみましょう。

### 3. 応援を呼ぶ。自動除細動器 (AED) をとりに行ってもらう

次にその場で大声をあげて、応援を呼びましょう。“誰か来てください！”周囲の人に今、大変な事が起きている事を喚起し、救急システムを起動させるためです。そうしないと、永久にあなたはひとりぼっちです。誰かが気づいてくれたら、“あなたは 119 番通報してください” “あなたは AED を持ってきてください”と声をかけます。日本では市民からの通報を受け、救急隊が現場到着するまで全国平均 7.9 分です。それまでが、あなたと協力者の戦いになります。AED については後でも話しますが、これは致死的不整脈を正常なリズムに戻す事ができる魔法の箱です。最近では映画館、公民館、学校等では備え付けられてあるので、これを取ってきてもらいましょう。当院の 4F レストランにも置いてあります。レストランの前で、この箱により二人の方の命が助かりました。

では大声で呼んでも誰も気づいてくれなかったらどうしますか？ まずは自分で 119 番をコールして救急隊を呼びましょう。蘇生のプロ集団が AED を持って駆けつけてくれるはずです。

### 4. 呼吸の確認

心臓が停止すると、呼吸を司る脳幹への血流も停止し、まもなく呼吸は止まります。従って、呼吸の停止は心停止と考えてさしつかえありません。呼吸の有無を確認するには胸と腹の動きを見ます。この確認には 10 秒かけてはなりません。10 秒観察しても判断に迷うなら、呼吸停止＝心停止と考えます。

また、心停止して間もない時にはあえぐような呼吸が残っている場合があります。これを死戦期呼吸といいます。文字通り、死との最後の戦いであり、時には大きくしゃくりあげるように見える場合もあります。しかし、これは正常の呼吸ではなく、やはり呼吸停止＝心停止と判断して、直ちに次ぎに述べる胸骨圧迫を開始します。以前は脈の確認により、心停止を判断しましたが、脈の有無の判断は非常に難しい。よって、熟練者以外は省略されました。もし、正常な呼吸がある場合（心臓は当然動いている）は回復体位（後述）をとらせ、救急隊を待ちます。

**匠の技 1** 呼吸停止の判断は 10 秒以内に。反応なく、いつも通りの呼吸がなければ、それは心停止の徴候。ただちに胸骨圧迫開始

## 5. 胸骨圧迫

以前は心臓マッサージと言っていた巧の業は今では胸骨圧迫という言葉に変わりました。マッサージといえば、何となく優しく、リラクスムード。私も大好きですが、そんな悠長な場面ではありません。生と死との狭間。魂をこの世に呼び戻すには強く、速い業が必要です。正しく行えば、屈強な男でも 2 分ともたないほど、労力を要します。でも、手を休めてはなりません。絶え間ない業が重要です。人を呼ぶのは巧の業を続けるための交代要員確保の意味もあります。

具体的方法はまず、倒れた人の左側からだに向いてひざをつき、胸の真ん中の平らな骨＝胸骨の下半分に手のひらの基部（足でいえば、かかと）を当て、もう一方の手を重ねます。指を組んでも構いません。肩はあてた手のひらの真上に来るようにして、肘をのばし、腕を垂直にします。そのまま全体重をかけるつもりで強く速く（回数ではなく、速い加速度で）押します。押す深さは 5cm 以上は沈むようにします。回数は 100 回/分以上。“こんなこと、いいな。できたらいいな ♪♪…” ドラえもんの歌の拍子が約 120 回/分。それより少し遅く。“風の中のすばる～砂の中の銀河～みんな何処へ行った～ ♪♪…” そう、中島みゆきの地上の星が 100 回/分。それよりちょっと早くしっかり押します。そして、押ししたらしっかり戻します。戻した時に心臓に体中から血液が戻ります。そして、また押す。そして、休まない。これにより守るべき臓器、特に頭への血流を維持するわけです。

でも、みんな遅いなあ。戻ってこないなあ。どこへ行ったのかなあ。中島みゆきの歌は必然と暗くなります。

**匠の技 2** 胸骨圧迫は 100 回以上。強く、速く、深く、しっかり戻す。そして絶え間なく。

## 6. 気道確保と人工呼吸

あれ、呼吸停止の確認をして、先に胸骨圧迫？ それから人工呼吸？ 蘇生の ABC といえば、A (airway; 気道確保)、B (breathing; 人工呼吸)、C (compression; 胸骨圧迫)ですよね。それでいいの？ そうです。今の流れでは CAB です。これが本シリーズの匠。蘇生の CAB です。呼吸停止の確認は 10 秒の制限がつくほど難しい。また、見ず知らずの人に人工呼吸を行うのはどうしてもためられますし、人工呼吸を行うとするとこれも難しい。難しいだらけなので、迷うようなら早く胸骨圧迫をしたい。血液を脳に送り出したい。この思いから、胸骨圧迫が優先されました。また、心肺蘇生法の訓練を受けたことがなく、人工呼吸に自信がなければ胸骨圧迫だけでも効果はあります。やれることをやる。これが救命への第一歩、ガイドライン 2010 に込められたメッセージです。

さて、もし、人工呼吸を行うなら、気道を確保しなければなりません。だから、C の次は A となります。そうしないと、肺に入れるべき空気は胃に入ってしまいます。人工呼吸でおなかはパンパン。それ

ではいけません。それを防ぐための方法が、頭部後屈あご先挙上法による気道確保です。正確には手を使うので用手的気道確保。まず、片手で額を押さえながら、頭を後屈、もう一方の手の指先をあごの先端、硬い骨の部分にあてて、挙上（もちあげる）します。この特殊な体勢により気道が開き、空気が肺に入りやすくなります。

人工呼吸はこの体勢のまま行います。救助者は大きく口をひらき、傷病者の口を覆うようにして密着し、1秒間、空気を吹き込みます。同時に額をおさえている手で鼻をつまみ、空気の漏れを防ぎます。これが口対口人工呼吸です。前回話した通り、感染防御具を用いることも薦められます。これを胸骨圧迫と組み合わせ、30回の胸骨圧迫と2回の人工呼吸で心肺蘇生法は完成します。以上が、一次救命処置(BLS)の概要です。

長い間、おつきあいいただき、ありがとうございました。では、皆様、さようなら・・・おっと。大事な話を忘れていました。魔法の箱です。実はこれがなければ、助かるものも助からない。なぜ？ それは次回、匠の最終回でお話いたします。

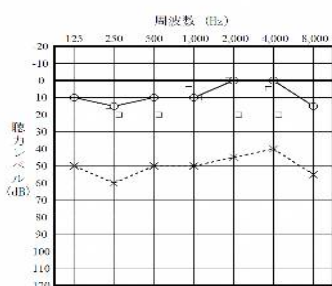
## 三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

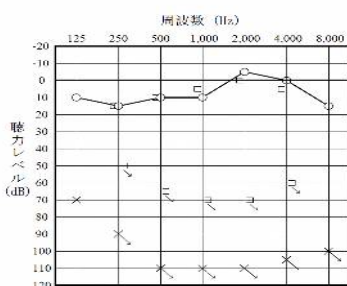
標準聴力検査においてマスキングは難しく、陰影聴取しているオーディオグラムが出来ることがあります。今回のコラムでは、陰影聴取を見分けるポイントをお話していきます。

### 陰影聴取って??

#### ①陰影聴取のオーディオグラム



#### ②本当のオーディオグラム



陰影聴取 (shadow hearing) は、マスキングが入ってないときや、マスキングが十分でないときに起こります。悪い耳に聞かせた音が骨伝導で良い耳に伝わり、本来聞こえない音を良い耳で聞き取ってしまうことです。見分けるポイントは、①良聴耳の骨導の閾値より全周波数に渡り、40dBほど悪くなっている、②良聴耳とオーディオグラムの形が非常によく似ている、です。

実際に①の左耳のオーディオグラムを見てみると、右耳のオーディオグラムによく似ていて、かつ40dB程度全周波数にて閾値が落ちています。このような場合は陰影聴取している可能性が高く、適切なマスキングで測定すると②のオーディオグラムのような本当の閾値が分かります。陰影聴取を見つけ、見せかけのオーディオグラムで評価しないようにしましょう。

(常田 千佳、黒谷 まゆみ、佐藤 真紀、高橋 典子)

## ◇ 各委員会・作業部会から ◇

### ◎◎◎介護保険委員会◎◎◎

#### 平成23年度第1回介護保険委員会勉強会を終えて

10月16日、千葉大学医学部附属病院にて平成23年度第1回介護保険委員会勉強会を開催し、言語聴覚士をはじめ、看護師、学生など22名の方にご参加頂きました。

今回のテーマは「地域で支える言語聴覚療法のあり方～訪問STに求められること・できること～」でした。第1部では、「訪問リハビリに関する制度について」を緑ヶ丘訪問看護ステーションに勤務



する言語聴覚士の勝又綾子氏に、「訪問看護ステーションにおける訪問リハビリに関して」を同ステーションの看護師である山崎潤子所長にご講義頂きました。両氏とも、実際に訪問リハビリに携わっていてもわかり難い、訪問リハビリの制度や役割について、大変わかりやすくご講義くださいました。特に山崎氏のご講義では、訪問看護ステーションからの訪問リハビリの制度や訪問看護ステーションの仕組みについて、とても興味深く学ぶことができました。

第2部では、介護老人保健施設グレースケア市川で言語聴覚士をされている木村知希氏から「進行性疾患における摂食嚥下障害者へのアプローチとその経過」というテーマで症例報告を頂きました。長期に渡って関わった事例をご紹介頂きました。ここでは、訪問リハビリでは関わることの難しい点や、在宅だからこそ出来る点をご提示くださり、連携の大切さなどを改めて考える機会となりました。今後、同じような症例を担当する際には大いに参考にさせて頂ける事例紹介となりました。

そして第3部では、居宅介護支援事業所レビー白雲の管理者である、主任介護支援専門員の大森智衣氏、第1部でご講義くださった山崎潤子氏の両氏にコメンテーターとなって頂き、『よりよい連携とは』をテーマにディスカッションを行いました。両氏からは訪問看護師・介護支援専門員というお立場から、より具体的なご説明やアドバイス、STに対して望むことなどをお話頂きました。さらに、普段ではうかがえないような訪問看護師・介護支援専門員としての仕事のやりがいや苦悩などについてもお話くださり、大変勉強になりました。特に印象に残った『患者様を考えたりハビリをして欲しい』という言葉肝に銘じ、今後は訪問に関りたいと思います。このように他職種の方々と意見を交換することで、参加者一同、訪問リハビリという仕事の重要性、必要性を深く考えることのできる貴重な1日となりました。

また2次回では、会場を居酒屋に移しての懇親会が開催され11名の参加がありました。講師の先生を囲み、吉田会長、も加わり、普段ではなかなかお話できない踏み込んだ内容の会話に花がさきました。

次回は皆様もぜひぜひご参加ください！

(小野 幸男)

## ◎◎◎小児言語障害委員会◎◎◎

### 情報交換会報告

小児言語障害委員会は10月30日、「言語・コミュニケーション面の評価はどうしていますか？」をテーマに君津中央病院で情報交換会を開催しました。今回の開催地は「木更津市」と、千葉県中心部からは遠方となりましたが、それでも当日は、当会員の他、療育に携わる保育士や作業療法士、心理士、アニマルセラピストなど、さまざまな領域の専門家が県全域から集まり、18名の参加になりました。会は終始、和やかな雰囲気が進められ、参加くださったさまざまな職種の方にも言語聴覚士の役割や評価・指導への考え方をご理解頂ける機会になったのではないのでしょうか。

当日は、まず会場となった君津中央病院の施設見学が、同病院の言語聴覚士である金子義信先生の案内により行われました。ここでは、日頃言語訓練で使用されている訓練室の見学に加え、教材なども見せて頂きました。また金子先生からは、待合室での子ども達の様子や対象児のお話の他、①病院では、木更津市・君津市・袖ヶ浦市といった広域の療育を医療機関として担っていること、②地域から求められる内容と病院内の医師や他職種から求められる内容など、地域の療育に関わる病院の言語聴覚士の役割についてもお話くださるなど、日頃、言語聴覚療法だけでなく教育機関と行政との連携や、教育相談など幅広く活動される金子先生の業務に関心が寄せられました。続いて、のぞみ療育グループの言語聴覚士である木下亜紀先生が、今回のテーマである「言語コミュニケーションの評価と指導」について、事例を用いてご報告くださいました。報告では、はじめに他職種の方や経験年数の少ない言語聴覚士の参加に合わせて、小児で使用する知能・言語検査の紹介をして頂きました。続いて認知・言語促進のための包括的な評価・指導法である「認知・言語促進プログラム（NCプログラム）」のお話をしてくださいました。ここでは、時間をかけてあらゆる場面で評価できるプログラム内容とそのチャートをご紹介頂き、適切なAAC手段の組み合わせや、発達段階に合わせたAAC導入することで、その変化の予測ができることをご報告いただきました。またAACを導入した事例の紹介では、コミュニケーションボードやVOCALの選択、さらに事例児の発達・特徴に合わせてiPad（DropTalk・たすくスケジュール）の機能を活用することで、音声も伴う自発的な要求につながる指導場面が報告されました。また「CLM（認知・言語・運動）プログラム」の評価は個別指導だけではなく、グループ指導にも役立つということを学ぶことができました。

最後に参加者全員による自己紹介、前半の事例報告への質疑応答などフリーディスカッションが行われました。その中で、「訓練の動機付けに対する子どもの受信力の評価」「発達段階に合わせたさまざまなAACの導入と活用について」「周囲と折り合いをつける経験を通して社会性を伸ばすこと」などが話題に上りました。今回も、多くの専門職の方にご参加頂けたことや、また臨床経験の長い言語聴覚士が参加したことで、話し合いは日々の療育や診療の悩み・不安にまで多角的に広がり、それぞれが助言に基づき今後の臨床に活かせる内容となりました。参加者からのアンケートには、定期的な開催や、地域毎の開催についての希望、参加者同士が顔の見える関係となるよう情報交換会を継続して欲しいなどが挙げられ、今後の委員会活動につなげていきたいと思っております。

（藤田 誠）

## ◎◎◎リハビリテーション公開講座作業部会◎◎◎

### 第5回 リハビリテーション公開講座報告

平成23年10月15日(土)に千葉市美浜文化ホール・メインホールにおいて、リハ医学懇話会、(一社)千葉県理学療法士会、(一社)千葉県作業療法士会、千葉県言語聴覚士会、の主催で「第5回リハビリテーション公開講座」を開催致しました。

今年度は、昨年好評であった「予防」をさらに一新して「生活の中でできる予防の取り組み」をテーマにし、127名の方が参加くださいました。会場では、リハビリテーション医師による「加齢による機能低下と疾病の予防」の基調講演後、理学療法士会からは「肩・腰の痛みの予防」、作業療法士会からは「うつ予防」についての講演が行われました。当県士会からは相楽 涼子先生が、「嚥下・口腔機能の低下を防ぐために」という演題のもと、嚥下障害の特徴や対応・嚥下障害を防ぐための体操を、具体的に分かりやすくご講義くださり、会場では多くの方が先生の実演の下、一緒に体操を行う様子がみられました。

参加者のアンケートからは「内容が分かりやすくてよかった。」「体操が絵付きだったので、家でも忘れずに行える。」「障害にとらわれず、一般予防や実演があつて良かった。」などのご意見があり、今回から取り組んだ、自宅で気軽に行えるリハビリの実演に対して大変好評を頂きました。さらに、作業療法士会が講義を担当した「うつ予防」に関しては「非常に良かった」という感想や、会場からの質問も出され、現代社会において「うつ」は、リハビリ領域でも支援を必要とする身近なテーマであることを実感致しました。

講演終了後には、当日の講師と各士会の会長が対応する個別相談会があり、多くの方の利用がありました。当士会の利用は3名で「丁寧に相談にのって頂き嬉しかった」との意見を頂きました。「予防」というテーマの下、県民の健康増進及びリハビリテーションの発展のためにも、大変意義のある企画だと思いました。

作業部会の反省会では「リハビリテーション公開講座は、ひとつの士会では開催は難しく、三士会とリハ懇話会が協力して実現できる。このような企画は、県民に対して幅広い情報提供が可能になる」「会場をもっと利便性のある場所にしてはどうか」「千葉県内は広いので各地を巡回することも必要ではないか」「高齢化社会において、様々なニーズがあるが、対象やテーマをどこに絞るか、検討が必要」「周知方法の検討」についての意見が出されました。また当理事会からは、「リハビリを経験した、当事者を巻き込んだ実体験を伝える企画」「震災や非日常状況下におけるの疾病等への対応」「参加者人数に対する費用対効果の検討」などについての意見を提出致しました。ご協力頂いた、総泉病院と松戸・市川にある「言語ディサービスミカタ」の当日スタッフはじめ、各士会から参加した19名のボランティアのアンケートでは「利便性を考えた開催場所の確保」「興味を持って楽しく参加できる講義内容の検討」などが寄せられ、さらに多くの参加者に満足のいく企画の開催に向けて、第5回という節目を振り返っております。ご協力頂いた会員の皆様に感謝致します。今後とも企画運営に関してのご意見など、よろしくお願いいたします。

(神作 暁美、本間 菜摘、鈴木 三樹子)

## ▼△▼△▼ お知らせ ▼△▼△▼

千葉県老人保健施設協議会 S T 分科会 合同開催

### 平成 23 年度 第 2 回 勉強会のお知らせ

介護保険委員会では、千葉県老人保健施設協議会 S T 分科会と合同で、下記の日程で勉強会を開催いたします。

昨年度に引き続き、委員からの症例報告で介護保険下での S T の関わりをお伝えします。介護保険での S T の関わりにお悩みの方、介護保険サービスに繋がりたいけれど実際にどのような関わりをしているのか知りたい方、ぜひこの機会にご参加ください。

詳しくは、県士会ホームページをご覧ください。

#### 『維持期だからこそできた関わり』

第 1 部 症例報告 (6 例)

第 2 部 意見交換・情報交換

日 時：平成 24 年 1 月 29 日 (日) 13 時～16 時 30 分

会 場：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター 4 階研修室

(鎌ヶ谷市役所裏手にあります)

参加費：会員・会友および学生は無料、会員外 500 円

#### お申込み

氏名・所属・連絡先を明記し下記までお送りください。

①メール chiba\_kaigohoken@yahoo.co.jp (委員会アドレス)

②FAX 043-484-4681 (佐倉ホワイエ・S T 平澤宛)

**\* 勉強会後懇親会開催予定 (会場周辺予定) !**

ご希望の方はお申込みの時にお書き添えください。

皆様、奮ってご参加下さい！

## ◇ 事務局から ◇

### 1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

### 2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力お願いいたします。

### 3. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

### 4. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員 336 名・会友 24 名・賛助会員：6 団体

（平成23年11月13日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

大道 美佳(高名清養病院)

三浦 美沙(千葉脳神経外科病院)

林 佑子(船橋市立リハビリテーション病院)

加藤 由美(佐倉厚生園)

小山 理佳(亀田総合病院)

秋葉 彩香(佐倉厚生園)

今井 梨香(総泉病院)

石井 みゆき(亀田メディカルセンター)

鈴木 智子(新八千代病院)

黒川 智美(おゆみの診療所)

高橋 勇人(千葉・柏リハビリテーション病院)

兜森 雅恵(第2北総病院)

柄澤 結香(新八千代病院)

伊藤 瞳(船橋市立リハビリテーション病院)

小池 沙織(亀田総合病院)





## ■□■ 年会費納入のお願い ■□■

平成24年度分年会費のお支払いをお願いいたします。年会費は前納制となっております。金額はこれまでの納入状況により変わりますので、封筒の宛先の下に記されている納入状況をご確認いただき、同封の振込用紙に金額を記載してお振り込みいただけますよう、よろしくお願いいたします。なお、本会の会則により、2年以上会費未納の場合退会とみなされますのでご注意ください。

正会員 3500円 会友 3000円

賛助会員は、一口5000円（個人1口以上、団体2口以上でお願いします。）

研修会にて現金でもお支払い頂けますが、なるべく郵便振替または自動引き落とし制度をご利用頂きますようご協力をお願いいたします。

### 《①ゆうちょ銀行からのお支払い》

記号番号 00120-6-39932 千葉県言語聴覚士会

（記載例）※平成23年度未納の方の場合

払込取扱票	
00	口座記号・番号は間違えないよう記入してください。
001206	口座記号・番号は間違えないよう記入してください。
39932	口座記号・番号は間違えないよう記入してください。
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
	7 0 0 0
料 金	備 考
千葉県言語聴覚士会	
平成23年度 3500円	
平成24年度 3500円	
千葉市〇〇〇	
千葉 言語郎	
日 附 印	

各票の※印は、ご依頼人様においてご記入ください。

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）  
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証	
001206	口座記号・番号は間違えないよう記入してください。
39932	口座記号・番号は間違えないよう記入してください。
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
	7 0 0 0
お名まえ	千葉 言語郎
ご依頼人	
日 附 印	
料 金	備 考
円	

記事項を訂正し場合は、その箇所を訂正し印を押してください。

### 《②ゆうちょ以外の金融機関からのお支払い》

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900 店番：019

店名（カナ）：〇一九店（ゼロイチキュー店）

預金種目：当座

口座番号：0039932

カナ氏名（受取人名）：チバケンゲンゴチョウカクシカイ

## ◇ 理事会・委員会等報告 ◇

### ◆ 平成23年度 理事会

#### 《第5回》

日時：2011年7月10日（日）13時00分～15時30分 場所：千葉市黒砂公民館 2階会議室

出席者：石橋、木下、木村、相楽、鈴木、古川、宮下、吉田（以上理事8名）、岩本（監事）、飯村（書記）

1. 協議事項：・理事会他の議事録承認について ・新入会員の承認について ・一般社団法人化の準備について ・ニュースNo.36について ・千葉県耳鼻咽喉科講演会について ・言語聴覚士の日について ・研修会資料の廃棄について ・外部講師依頼について ・関連団体への挨拶について ・研修会情報のHP掲載について
2. 報告事項：・郵便物回覧 ・げんき会15周年記念への参加について ・リハ公開講座の進行状況について

#### 《第6回》

日時：2011年8月7日（日）13時05分～15時25分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、石橋、木下、木村、相楽、鈴木、古川（以上理事7名）、五十嵐（書記）

欠席者：宮下

1. 協議事項：・理事会、局等の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・常田氏からの依頼文について ・小児言語障害委員会の「情報交換会」について ・一般社団法人化について ・リハビリテーション公開講座実行委員会からの報告 ・高次脳機能障害委員の職業支援機関への取材について ・船橋地域リハ研究大会後援依頼について ・東葛南部地域リハ研修会後援依頼について ・ホームページのリニューアルについてのチーパくんの利用について ・ホームページビルダー購入及びホームページからの変更届について ・介護保険委員会主催勉強会について
2. 報告事項：・郵便物回覧 ・訪問リハ・地域リーダー育成研修会について ・回復期リハビリテーション連携の会について

#### 《第7回》

日時：2011年9月18日（日）13時00分～15時30分 場所：黒砂公民館 2階会議室

出席者：吉田、宮下、石橋、木下、木村、相楽、鈴木、古川（以上理事8名）、岩本（監査）、飯村、吉田（以上書記2名）

1. 協議事項：・理事会、局等の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・第2回訪問リハビリテーション実務者研修会について ・補聴器購入補助制度の対応について ・吃音ワークショップの後援承認について ・第3回研修会について ・リハビリテーション公開講座作業部会より ・介護保険委員会より ・言語聴覚士の派遣について ・言語聴覚士会の基礎講座講師研修への派遣について ・秋の都道府県県士会協議会について
2. 報告事項：・郵便物回覧 ・事務所の賃貸契約 ・「障害者就労支援の立場から」について ・回復期リハビリテーション病棟連携の会 ST 部会について

#### 《第8回》

日時：2011年10月23日（日）13時00分～15時00分 場所：鎌ヶ谷市身体障がい者福祉センター 4階研修室

出席者：吉田、宮下、石橋、木下、木村、相楽、鈴木、古川（以上理事8名）、竹中（監事）、飯村（書記）

1. 協議事項：・理事会他の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・ニュースNo.37について ・財政状況について ・ホームページについて ・第2回千葉県訪問リハビリテーション実務者研修会について ・南相馬市立総合病院からの派遣依頼について ・生涯学習プログラムの申し込み状況について ・千葉県リハビリテーション事業財

団30周年記念式典について ・平成24年度第1回研修会について ・リハビリテーション公開講座について ・摂食嚥下委員会より活動計画について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・JIMTEF災害医療研修について ・言友会全国大会について ・介護保険委員会部会第1回勉強会について

《第9回》

日時：2011年11月13日（日）13時03分～15時05分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、石橋、木下、木村、鈴木、古川、宮下（以上理事7名）、岩本（監事）、五十嵐（書記）

欠席者：相楽

1. 協議事項：・理事会、局等の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・ニュースNo.37について ・法人化について ・研修会進捗状況について ・作業療法士会の後援依頼

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・リハビリテーション公開講座について ・介護保険委員会第2回勉強会について ・年会費自動払込に関する事務手続きの変更について ・小児言語委員会情報交換会のアンケート報告 ・秋期県士会協議会報告 ・鴨川市社会福祉協議会からのお礼

## ◆ 平成23年度 学術局

《第2回》

日時：2011年7月10日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花2階 サークル室A

出席者：木下、木村、神作、酒井、荒木、佐藤、茂木（以上7名）

・学術局の仕事内容と役割分担 ・第2回研修会スケジュールの確認と役割分担 ・第3回研修会助言者・症例発表者の検討

《第3回》

日時：2011年9月11日（日）17時30分～18時30分 場所：東京女子医大八千代医療センター外来棟4階 大会議室 出席者：木下、木村、神作、酒井、荒木、佐藤、山本、茂木（以上8名）

・第2回研修会について ・第3回研修会について ・平成24年度第1回研修会について ・次年度計画作成について

## ◆ 平成23年度 広報部

《第1回》

日時：2011年7月31日（日）9時00分～ 場所：東京女子医大八千代医療センター 言語療法室

出席者：加藤、相楽（以上2名）

・HP画面のリニューアルについて ・HPからの研修会等申込、変更届について ・会員専用ページの「学術局 ビデオ貸し出し」について ・会則、施設一覧の最新版について ・勉強会、講習会案内の掲載基準について ・HPビルダー購入について ・会員ページの充実

## ◆ 平成23年度 高次脳機能障害委員会

《第2回》

日時：2011年7月24日（日）10時00分～12時00分 場所：八千代市緑ヶ丘公民館

出席者：大内、鈴木、治田、平井、竜崎、石橋（以上6名）

・「認知教材集」の更新について ・高次脳機能障害（失語症含む）の就労支援について

《第3回》

日時：2011年9月10日（日）10時00分～12時00分 場所：八千代市緑ヶ丘公民館

出席者：大内、鈴木、治田、石橋（以上4名）

- ・障害者就労支援機関への見学について
- ・障害者就労支援セミナーの参加報告
- ・「認知教材集」の更新について

### ◆ 平成23年度 介護保険委員会

《第1回》

日時：2011年6月19日（日）10時00分～11時45分 場所：サイゼリア 船橋イトーヨーカドー店

出席者：平澤、坪木、小野、細野、勝又、木村（以上6名）

- ・今年度委員について
- ・今年度活動計画について
- ・役割分担について
- ・連絡方法について
- ・旅費の精算について
- ・年間計画について
- ・勉強会について

《第2回》

日時：2011年10月16日（日）17時00分～17時30分 場所：千葉大学医学部附属病院 第3講堂

出席者：平澤、小野、細野、勝又、坪木、木村（以上6名）

- ・第1回勉強会について
- ・年間計画変更について
- ・次回会議について

《第3回》

日時：2011年11月13日（日）10時00分～11時30分 場所：サイゼリヤ船橋イトーヨーカドー店

出席者：平澤、勝又、坪木、小野、細野、木村、末藤（以上7名）

- ・平成23年度第2回勉強会について
- ・会員への広報について
- ・申し込み方法について
- ・勉強会内容の詳細について

### ◆ 平成23年度 聴覚障害委員会

《第2回》

日時：2011年8月7日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花 サークル室 palA 室

出席者：常田、佐藤、黒谷、高橋（以上4名）、荻洲（研修会講師）

- ・手帳を所持しない難聴児への補聴器購入にあたっての助成を求める活動について
- ・研修会の講演内容について

《第3回》

日時：2011年8月28日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花 サークル室 palA 室

出席者：佐藤、黒谷、高橋（以上3名）、荻洲（研修会講師）

- ・手帳を所持しない難聴児への補聴器購入にあたっての助成を求める活動について
- ・第2回委員会議事録
- ・研修会の講演内容について

### ◆ 平成23年度 組織検討委員会

《第2回》

日時：2011年9月4日（日）9時30分～11時30分 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：吉田、平山、大内、番（以上4名）

- ・当会の法人化の流れについて
- ・ニュースに掲載する「一般法人Q&A」について
- ・定款作成について
- ・法人化へのスケジュールについて

### ◆ 平成23年度 小児言語障害委員会

《第1回》

日時：2011年7月3日（日）10時00分～11時15分 場所：千葉駅前ジョナサン

出席者：藤田、金子、常光、木下（以上4名）

- ・今年度の活動計画の確認 ・情報交換会開催要項の検討

《第2回》

日時：2011年10月2日（日）11時00分～12時30分 場所：君津中央病院

出席者：藤田、金子、常光、木下（以上4名）

- ・情報交換会について ・今後の予定

《第3回》

日時：2011年10月30日（日）15時40分～16時10分 場所：君津中央病院

出席者：藤田、金子、常光、木下（以上4名）

- ・情報交換会の反省 ・ニュース原稿について ・今後の予定

## ◆ 平成23年度 リハビリテーション公開講座委員会

《第2回》

日時：2011年5月16日（月）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務局

出席者：理学療法士会（田中、高橋、塩月）、言語聴覚士会（神作、本間、鈴木）、作業療法士会（坂田、金子）

- ・後援申請について ・ポスター及びちらし原稿について ・広報について

《第3回》

日時：2011年6月20日（月）19時00分～21時15分 場所：千葉県理学療法士会事務局

出席者：理学療法士会（田中、高橋、塩月、栗田）、作業療法士会（金子、石橋、坂田）、言語聴覚士会（神作、本間、鈴木）

- ・後援申請について ・各士会の講師に関わる進捗状況 ・講師打合せについて ・会場使用方法 ・チラシ、ポスターの印刷や配布について

《第4回》

日時：2011年7月11日（月）19時00分～21時10分 場所：千葉県理学療法士会事務局

出席者：理学療法士会（田中、高橋、塩月、栗田）、作業療法士会（坂田、金子、石橋）、言語聴覚士会（神作、鈴木）

- ・チラシデザイン＋配布方法、時期 ・基調講演の司会 ・抄録の依頼、印刷 ・当日のスケジュール再確認 ・人の貼り付け、搬入、搬出について ・当日の必要物品手配 ・問い合わせのメールのチェック体制

《第5回》

日時：2011年8月22日（月）19時00分～21時30分 場所：千葉県理学療法士会事務局

出席者：理学療法士会（田中、高橋、塩月、栗田）、作業療法士会（坂田、金子、石橋）、言語聴覚士会（神作、鈴木）

- ・会計について ・保険について ・当日の進行について ・会告方法について

《第6回》

日時：2011年9月8日（月）19時00分～21時45分 場所：千葉県理学療法士会事務局

出席者：理学療法士会（田中、高橋、栗田）、作業療法士会（坂田、金子、石橋）、言語聴覚士会（神作、鈴木）

- ・人員貼付（ボランティア）、物品、スケジュールを部署毎に確認 ・チラシ・ポスター配布について ・記者クラブへの投げ込みについて ・ボランティア保険 ・アンケート ・次年度計画 ・10月15日に向けたスケジュール確認

《第7回》

日時：2011年10月3日（月）19時00分～20時50分 場所：千葉県理学療法士会事務局

出席者：理学療法士会（田中、高橋、塩月、栗田）、作業療法士会（坂田、金子、石橋）、言語聴覚士会（神作、鈴木）

・広報 ・会場・駐車場について ・受付と配布資料 ・配布資料について ・アンケートの修正 ・昼休み休憩と弁当の発注について ・会場アナウンス、PPT ・ボランティア活動保険 ・会計 ・当日の集合場所、服装、連絡方法 ・事業報告について

## ◆ 平成23年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

《第2回》

日時：2011年9月3日（土）14時30分～16時00分 場所：千葉市療育センター 静養室

出席者：斉藤、西本、太良木、古川（以上4名）

・申し込み状況（※9月3日時点） ・今後の申し込みについて ・会計について ・当日までの作業確認 ・当日の予定 ・参加証明書、領収証 ・来年度生涯学習プログラム 日程予定

《第3回》

日時：平成23年11月20日（日）16時50分～17時30分 場所：千葉市民会館

出席者：斉藤、西本、宇治、太良木、古川（以上5名）

・受講状況について ・11月27日の日程について ・当日の持参品 ・当日の役割 ・当日会場について ・来年度生涯学習プログラム基礎講座・専門講座について

《第4回》

日時：2011年11月27日（日）16時00分～17時00分 場所：千葉市民会館

出席者：斉藤、西本、宇治、太良木、古川（担当5名）

・生涯学習プログラム2日目の参加状況 ・生涯学習プログラム2日目の進行状況

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）



### 編集後記

今回は、介護保険委員会や小児言語障害委員会、リハビリテーション公開講座などの研修会報告が多く掲載されました。いずれの研修会においても、会員のみならず、他職種の方々が多く参加くださり、その盛況さや「他職種間連携」の重要性が伝わってくる内容でした。千葉県士会の理事会では、来年度の法人化実現に向けて準備が進められているようです。PT・OT、その他の職能組織と足並みがそろうことによって、ますます他職種との連携が求められるようになってくることなのでしょう。会員みんなで協力しあい、県士会を盛り上げて参りましょう。

## 多機能言語訓練装置

# ActVoice®

アクトボイス

ActCard®対応 税込39,900円



失語症等言語障害者への言語訓練を目的として開発された、多機能言語訓練装置です。言語聴覚士による絵カードを使用した言語訓練・失語症者自身による言語訓練を補助します。カードをセットし、ヒントボタンを押すとヒントが、答えボタンを押すと答えが再生されます。設定を変えることにより、カードをセットしてから、一定時間後に自動でヒントや答えを再生することも可能です。本機には録音機能が内蔵されており、簡単な操作で録音・再生が可能で、実際の発声状態を客観的に確認できます。さらに、日時・録音した音声・操作履歴がSDカードに常時記録され、そのデータを利用して、長期的な訓練経過などについて、評価・研究が可能となります。また、別売のブランクカードを使用して簡単にカードを自作できます。「青い山脈」や「ふるさと」等、懐メロや唱歌カードも発売予定となっており、訓練意欲向上が期待されます。

開発協力 村西幸代 国保直営総合病院 君津中央病院 言語聴覚士  
古川大輔 国保直営総合病院 君津中央病院 言語聴覚士  
黒岩真吾 千葉大学大学院 融合科学研究科 情報科学専攻 教授  
協力 特定非営利活動法人、全国失語症友の会連合会

好評発売中！



言語訓練用絵カード

## ActCard®

アクトカード

第1巻 名詞絵カード300枚組 税込18,900円 好評発売中！

第2巻 名詞絵カード300枚組 税込18,900円 12月下旬発売！

ActVoice®対応

人に優しい、医療に優しい介護を目指して…

 エスコアール [www.escor.co.jp](http://www.escor.co.jp)

〒292-0825 千葉県八井市津田2-36-3  
電話 0438-30-3090 Fax 0438-30-3091

# マウスピュア® シリーズ 口の機能を取り戻すために

唾液分泌  
促進

清掃

保湿

口腔  
マッサージ

マウスピュア®

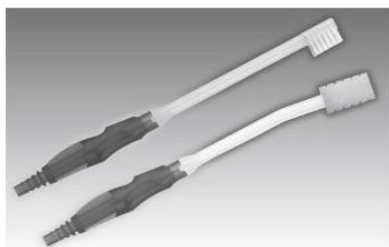
有効成分(グリチルリチン酸二カリウム)配合  
湿潤剤(ヒアルロン酸Na)(濃グリセリン)配合

医薬部外品  
薬用歯磨き  
梅風味

40g 希望小売価格 1,470円



## マウスピュア® シリーズ口腔ケア製品ラインナップ



吸引+歯みがき / 吸引+口腔清掃  
「吸引歯ブラシ」「吸引スポンジ」



口腔清掃  
「口腔ケアスポンジ」



アイスマッサージ  
「口腔ケア綿棒」



舌リハビリ  
「口腔ケアガーゼ」



舌清掃  
「フレッシュメイト K」

※ 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

**川本産業株式会社**

本社 / 大阪市中央区糸屋町 2 丁目 4 番 1 号

●お客様相談窓口 ☎06-6943-8956 (10:00~17:00 月~金ただし祝祭日を除く)

●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は

マーケティング本部 ☎06-6943-8941

<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>





水に混ぜるだけ! ゼリーが手軽に作れます。

水分補給に Quick Jelly

クイックゼリー

包装単位: 10g×36



ビタミン補給に Quick Jelly Vit

クイックゼリー-Vit

包装単位: 5g×36



「ひとくちめ」から  
幅広く  
サポートします。



はやい

水に溶かして30秒間混ぜるだけ。

3～5分後にはさわやかなゼリーができて上がります。

水さえあれば、いつでもすぐに、食感のよいゼリーが召し上がれます。

かんたん

加熱や冷却が不要。

外出先でもベッドサイドでも手軽に作れます。

加熱調理や冷却のための時間がかからず、作り置きスペースも省けます。



食べやすい

均質で飲み込みやすいテクスチャー。

離水がなく、温度による変化もほとんどありません。

テクスチャー: 硬さ・付着性・凝集性など  
口腔内で知覚される  
食品の物理的性質

新発売

カプサイシン入りフィルム状食品

カプサイシンプラス®

カプサイシンの力で食事を楽しく!

マンゴー味

U字の切れ込みが  
入っています。

特長

- カプサイシンは、トウガラシ(唐辛子)の成分です。
- 2枚で1.5μg(0.75μg/枚)のカプサイシンが摂取できます。
- 舌の上ですばやく溶けます。

使用方法

目安として2枚程度を口の中(舌の上)に入れ、  
全部溶けたらお食事をお楽しみください。



包装: 24枚×10



販売者  
株式会社 三和化学研究所  
本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631  
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861  
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>



補聴器のご相談は安心できる

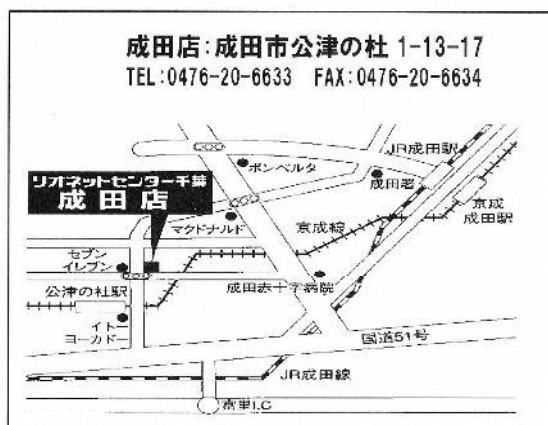
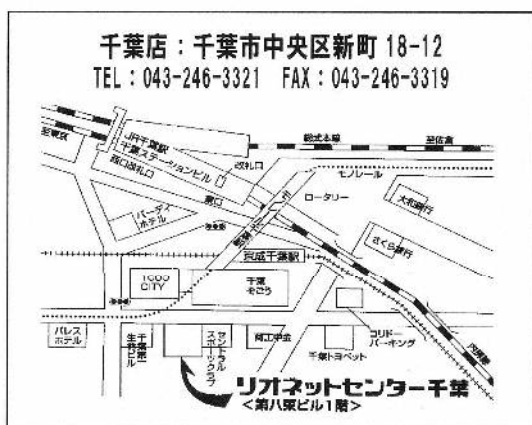
## 認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ、「財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



認定補聴器専門店

## リオネットセンター 千葉



発行所：千葉県言語聴覚士会

発行人：吉田浩滋

編集人：編集部 古川 大輔、上野 沙織、大道 美佳、牧 達人、村西 幸代

事務局：〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード：affordance

印刷：社会福祉法人 大成会 成田市のぞみの園